



光輝く白銀の世界へ

スキー・スノーボード教室2006 (鳥ヶ原)

例年がない大雪のため、道路やスキー場は大丈夫だろうかと心配していましたが1月21日、赤倉温泉スキー場(新潟県)に到着すると光輝く、白銀の世界が私たちを迎えてくれました。朝ご飯を食べ終わるとすぐに板を抱えてゲレンデに出発!前日の新雪のおかげでゲレンデの状態は最高。サラサラで粉のような雪が滑走を楽しませてくれました。

スノーボード教室は何回転んでも楽しく私たちが夢中にさせてくれました。

22日、快晴の空を眺めながらゲレンデへと向かう人、家族のお土産を買いにいく人、思い思いにこの日を過ごし最後はみんなで記念写真をとりました。

青空の下、滑走を楽しむ

いがまちスキー教室 (伊賀)



1月21日・22日の2日間、ひるがの高原スキー場(岐阜県)で、いがまちスキー教室(主催:伊賀市・伊賀地区のスポーツを考える会)が行われました。

15人の参加者は、いがまちスキー協会の指導者の方々からそれぞれのレベルに応じた指導を受け、ぐんぐん上達していました。教室終了後、参加者は「スキーが上手になってうれしかった」「またスキーに来たい」と満足そうに話してくれました。



寒くても元気いっぱい

阿山子どもスキー・スノーボード教室 (阿山)

2月10日・11日・12日の3日間、赤倉温泉スキー場で伊賀市体育協会阿山支部主催の「阿山子どもスキー・スノーボード教室」が行われました。

小・中学生37人がスキー教室とスノーボード教室に参加しました。新赤倉スキー学校の講師の指導のもと、最初は立つことさえまならなかった子どもたちも、昼からはリフトに乗れるまでに上達し、楽しそうにゲレンデを滑走していました。

最終日は、あいにくの吹雪となりましたが悪天候をものともせず、時間いっぱい楽しみました。



市民参画で計画策定へ

伊賀市総合計画タウンミーティング

1月29日、市内のホテルで伊賀市総合計画タウンミーティングが行われました。

昨年6月、伊賀市総合計画審議会を設置し、伊賀市自治基本条例を最高規範と位置づけ、市民と行政が一体となった総合計画を策定することを目的に審議・検討を重ね、まとめた中間案を基に市民の意見を計画に反映していこうと実施しました。

今岡市長・岩崎恭典審議会議長・浅野聡審議会副会長が市民、自治会、市議会、行政などおよそ200人の参加者と意見交換を行いました。今後は、18年度から計画実施できるよう、審議会において、当日参加者からいただいた意見とパブリックコメントでの意見をふまえた計画案の審議をお願いし、最終案の答申を受けて計画の策定を進めます。



育まれた郷土に感謝

沢田敏男氏文化勲章受章記念講演会

本年度の文化勲章を受章した旧青山町生まれ(大正8年)で元京都大学総長の沢田敏男さん(京都市在住)の受章記念講演会が2月4日、伊賀市阿保の青山ホールで行われ、約400人の市民が参加しました。

沢田さんは農業工学の分野で灌漑用の諸施設の研究において国際的に高い評価を受けています。

講演の中で、沢田さんは「実家の農作業の手伝いや名賀農学校(現名張高校)での学習を通じて農業の大切さや水利施設の重要性を学び、農業工学を志すようになりました。また、今日あるのは生まれ育った郷土のおかげです。今後も郷土の発展を願います」と話されました。



緊迫感が漂う勝負の一手

第10回上野公民館“市長杯”争奪囲碁大会



公民館サークル会員の交流と活動発表の場として、第10回上野公民館市長杯争奪囲碁大会が1月29日、ゆめぼりすセンターで行われました。

大会は市内16の公民館サークルから段クラス70人・級クラス28人が参加し、個人戦は段・級ともに予選リーグを1位で勝ち抜いた人が決勝トーナメントに進み、団体戦は各サークル3人以上の参加者を対象チームとし、勝ち数の平均値で戦われました。個人戦・団体戦とも優勝すると市長杯を手にすることができません。優勝者は次のとおりです。

- ▶段(個人) 松山澄郎さん
- ▶級(個人) 前池滝男さん
- ▶段・級(団体) 猪田公民館囲碁サークル

県推進員が市長に質問

男女共同参画市町長リレーインタビュー



2月2日、伊賀市役所で三重県男女共同参画推進員7人が今岡市長にインタビューを行いました。

市長は「男女共同参画の必要性をどのように感じていますか」「慣習・しきたり等で、男女共同参画が進んでいないことについてどう思いますか」また「少子高齢化社会における子育て・介護支援について」などの質問に対し「男女共同参画は大変重要な問題。若い人を見ると、男女共同参画が進んでいるように思いますが、地域社会においてはまだまだ意識改革が必要です」「地域において男性の仕事が女性自らが行うことも大切だと思います」「子育ては、家庭教育が何よりも大切。家庭や地域の声を行政に届けていただきたい」との思いを語りました。